

培養液のpHを下げて水耕ネギ根腐病を防ぐ



～農薬を使わず、誰でも簡単に～

連携機関 | 西部農業技術指導所
研究期間 | 平成22～24年度[開発研究]

研究開発のきっかけ

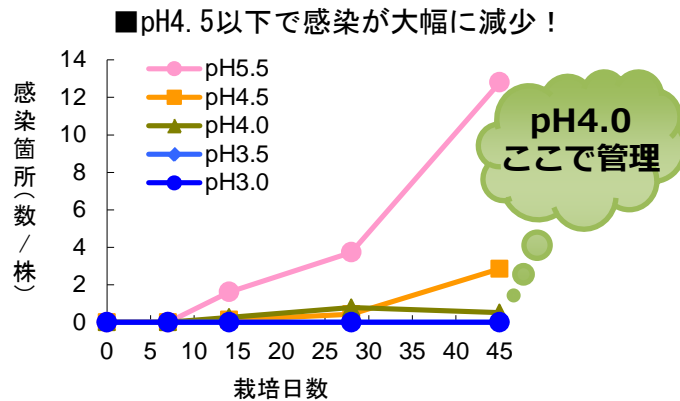
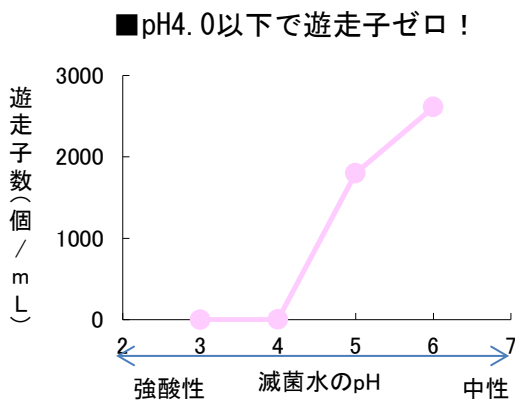
- ◆ 水耕ネギ栽培では、夏の高温期に水かびであるピシウム菌による根腐病が発生し、大きな被害を出していました。
- ◆ ピシウム菌は、遊走子と呼ばれる胞子を大量に作り、培養液中を移動することで、根腐病が急速に蔓延します。
- ◆ そこで、ピシウム菌が遊走子を作らないように、培養液の酸性度(pH)を調整することで根腐病を防ぐ方法を開発しました。



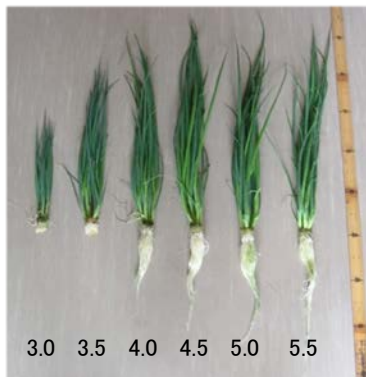
ピシウム菌による
ネギ根腐病症状

研究成果の概要

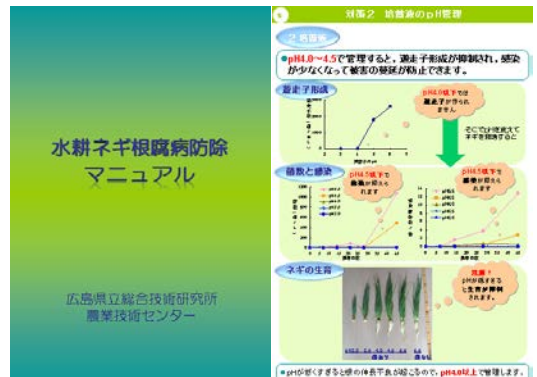
- ◆ 培養液をpH4.0で管理して、遊走子菌密度を下げることで感染を少なくし、被害の拡大を防止します。



■ 注意！ pH3.5以下は成長抑制



■ 防除マニュアルに掲載しています！



研究成果の活用状況

- ◆ 昨年、県内の生産者施設において、本成果の現地適応性を確認しました。
- ◆ 今後も、普及組織と連携して、水耕ネギの安定生産に貢献する予定です。
- ◆ 農業技術センターのホームページから、水耕ネギ根腐病防除マニュアルをダウンロードできます。

問い合わせ先 | 農業技術センター 技術支援部 | TEL 082-429-0522